

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための留意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 ご購入後の操作

お買い求めいただいたワークステーションを使えるようにするための操作を説明しています。必ず本書の手順に従って操作してください。

第2章 快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

第3章 リカバリとインストール

本ワークステーションをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明します。

第4章 困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

第5章 技術情報

ファイルシステムの変換方法や留意事項などについて説明しています。

本書をお読みになる前に

1

ご購入後の操作

2

快適にお使いいただくために

3

リカバリとインストール

4

困ったときに

5

技術情報

目次

本書をお読みになる前に	4
お問い合わせ一覧	4
本書の表記	5
第 1 章 ご購入後の操作	
1 セットアップ	8
Windows NT セットアップ	8
2 ユーザー登録とバックアップ	11
ユーザー登録を忘れずに	11
ドライバのバックアップ	11
3 プレインストール仕様	13
ソフトウェア一覧	13
ドライブ構成	15
第 2 章 快適にお使いいただくために	
1 コンピュータウイルス対策	18
VirusScan	18
コンピュータウイルスを発見した場合	19
コンピュータウイルスの被害届け	19
2 画面を設定する	20
Matrox Millennium G450 搭載モデルの場合	20
CELSIUS Quadro2 シリーズ搭載モデルの場合	22
3 ネットワークを設定する	24
ネットワークの設定	24
4 Power MANagement for Windows	25
PMAN の機能	25

第3章 リカバリとインストール

1 リカバリ概要	28
リカバリの概要	28
リカバリの手順	28
留意事項	29
2 リカバリ操作	30
リカバリ前の準備	30
リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）	30
リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）	31
リカバリ終了後	32
3 ソフトウェアのインストール	33
操作に必要なもの	33
ドライバのインストール	33
プレインストールソフトのインストール	44
添付ソフトのインストール	45

第4章 困ったときに

1 こんなときには	48
トラブル発生時の参照先	48
Windows NT に関する Q&A	48
2 それでも解決できないときは	52
お問い合わせ前の確認シート	53

第5章 技術情報

1 その他の留意事項	56
2 ファイルシステムの変換	65

索引	67
----	----

本書をお読みになる前に

お問い合わせ一覽

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2001 年 7 月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

- はじめよう！インターネット（@nifty）
 - ・ 入会／@nifty サービス全般
ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
電話：0120-816-042
（携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902）
E-mail：feedback@nifty.com
URL：<http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>
 - ・ パスワード再発行／各種手続き／解約
ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
電話：0120-842-210
（携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
E-mail：feedback@nifty.com
- VirusScan Ver.4.5.0 with SP1
日本ネットワークアソシエイツ株式会社
テクニカルサポートセンター
9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
電話：03-3379-7770
URL：<http://www.nai.com/japan/>
- Adobe Acrobat Reader4.05
ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。
ご了承ください。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

本書の表記

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブまたはDVD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe

画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。



「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 7 月現在のものです。変更されている場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professional を、Windows 2000 と表記しています。

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System を、Windows NT 4.0 または Windows NT と表記しています。

Microsoft® MS-DOS® operating system を、MS-DOS と表記しています。

VirusScan Ver.4.5.0 with SP1 を、VirusScan と表記しています。

Power MANagement for Windows を、PMAN と表記しています。

Adobe® Acrobat® Reader 4.05 を、Acrobat Reader と表記しています。

ディスプレイアダプタの CELSIUS Quadro2 MXR および CELSIUS Quadro2 Pro を、CELSIUS Quadro2 シリーズと表記しています。

機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中表記		
CELSIUS 421	CELSIUS 421	[C421]	本ワークステーション ワークステーション本体

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScan は、米国 Network Associates 社及び関連会社の商標又は登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたワークステーションを
えるようにするための操作を説明しています。
必ず本書の手順に従って操作してください。

1	セットアップ	8
2	ユーザー登録とバックアップ	11
3	ブレインストール仕様	13

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows NT の初期設定（Windows NT セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows NT セットアップ

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows NT セットアップを始めます。

留意事項

- Windows NT セットアップを行う前に、オプションを取り付けないでください（カスタマイドオプションを除く）。正しくセットアップされないことがあります。
- Windows NT セットアップを行う前にメモリを増設しないでください。正しくセットアップされないことがあります。
- セットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うとエラーメッセージが表示される場合があります。

セットアップ

1 ディスプレイと本ワークステーションの電源を入れます。

しばらくすると、「Windows NT セットアップ」ダイアログボックスが表示され、セットアップが始まります。

2 「次へ」をクリックします。

「使用許諾契約」が表示されます。

「使用許諾契約」とは、本ワークステーションにあらかじめインストールされている Windows NT を使用する上での契約を記述したものです。

3 「使用許諾契約」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「同意しません」をクリックし、「次へ」をクリックすると、「…使用許諾契約に同意しないと指定しました。」と表示されます。「いいえ」をクリックすると「使用許諾契約」のダイアログボックスに戻ります。「はい」をクリックすると「致命的なエラー」ダイアログボックスが表示されるので「OK」をクリックしてください。次に表示されるダイアログボックスで「閉じる」をクリックすると、本ワークステーションが再起動します。

「名前と組織名」のダイアログボックスが表示されます。

4 「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。

組織名は省略できます。

コンピュータ名を入力するダイアログボックスが表示されます。

5 コンピュータ名を入力し、「次へ」をクリックします。

「管理者アカウント」ダイアログボックスが表示されます。

6 「パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。 **POINT**

- ▶ パスワードでは大文字／小文字が区別されます。
- ▶ 「パスワード」を入力して「次へ」をクリックした場合、「戻る」をクリックして再びパスワードの設定画面に戻ることはできません。

「セットアップは終了しました」と表示されます。

7 「完了」をクリックします。

本ワークステーションが再起動し、「オペレーティングシステムの選択」画面が表示されます。

8 【Enter】キーを押します。

しばらくすると、「ログオンの開始」ダイアログボックスが表示されます。

9 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。

「ログオン情報」ダイアログボックスが表示されます。

10 手順 6 で入力したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

「ようこそ」ダイアログボックスが表示されます。

11 「閉じる」をクリックします。**12** 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

13 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

初めて電源を入れたあとに行うセットアップ時には、手順 14 に進みます。

リカバリ後のセットアップ時には、次の操作を行ってください。

リカバリ後の操作

- 1 ログオン後、「はじめよう！ CELSIUS」アイコンをダブルクリックします。

「はじめよう！ CELSIUS」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「OK」をクリックします。

自動設定が行われ、本ワークステーションが再起動します。

 重要

- ▶ 必ず「はじめよう！ CELSIUS」アイコンをダブルクリックしてください。本アイコンをダブルクリックしないと、以下の自動設定が行われません。
 - ・ 仮想メモリの設定

- ▶ リカバリ後のセットアップ時には、ディスプレイアダプタは自動的に設定されません。本ワークステーションに添付のディスプレイドライバをインストールする必要があります。「ディスプレイドライバのインストール」(→ P.36、P.37)、ディスプレイドライバ添付のマニュアルを参照の上、操作してください。

POINT

- ▶ 仮想メモリの設定について

仮想メモリの設定を行うには、ハードディスクに「最大サイズ分」の空き容量が必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量が不足する場合は、別のドライブに設定を行ってください。

仮想メモリ	推奨値
初期サイズ	本体搭載メモリ + 11MB
最大サイズ	初期サイズ + 50MB

ただし、ブートパーティション以外への設定、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルにできなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB (仮想メモリの容量は含まず) の容量が必要です。

仮想メモリの設定方法

- 1 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「パフォーマンス」タブの「仮想メモリ」で「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ページングファイルが格納されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
ドライブの変更は、システムドライブに十分な空き容量がある場合は変更する必要はありません。
- 4 仮想メモリの初期サイズと最大サイズを適切な値に変更し、「設定」→「OK」の順にクリックします。
- 5 本ワークステーションを再起動します。

14 再起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

「無効なディスプレイの設定」が表示された場合は、「OK」をクリックします。

15 「コントロールパネル」の「画面」をダブルクリックし、「ディスプレイの設定」タブでご希望の解像度／発色数を設定してください。

リカバリ後のセットアップの場合、「はじめよう！ CELSIUS」アイコンが消えたら、設定は終了です。

これで Windows NT セットアップが完了しました。

2 ユーザー登録とバックアップ

セットアップが終了したら、ユーザー登録およびドライバのバックアップを行ってください。

ユーザー登録を忘れずに

本ワークステーションが使用できる状態になったら、添付のユーザー登録カードに必要事項を記入し、投函してください。

ユーザー登録カードは、弊社やソフトウェア会社が自社製品のユーザーを把握し、さまざまな情報を提供する際に利用するものです。

ソフトウェアのバージョンアップ（ソフトウェアの機能を強化し、版数を上げること）時や電話相談などには、ユーザー登録をしていることが条件ですので、忘れずに投函してください。

ドライバのバックアップ

本ワークステーションに添付の「ドライバーズ CD」から、「バックアップディスク」を作成します。

「バックアップディスク」は、ドライバのインストールに使用します。

バックアップの内容

ソフトウェア名称	フロッピーディスクの枚数	入力するフォルダ名
NT4.0 ドライバ	1	Drv
Intel PRO/100 LAN ドライバ	1	IntelLan2

次のものを用意してください。

- ドライバーズ CD（添付されています）
- 1.44MB 2HD フロッピーディスク（表を確認し、必要な枚数を用意してください）

バックアップ方法

- 1 「ドライバーズ CD」とフロッピーディスクをセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 3 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。
format a:
- 4 【Enter】キーを押します。
フォーマットが終了すると、ラベルの入力メッセージが表示されます。

5 【Enter】キーを押します。

6 【N】キーを押し、【Enter】キーを押します。

7 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
cd /d [CD-ROMドライブ]:¥nt40¥xxx
```

xxx には、「バックアップの内容」の表のフォルダ名を入力します。

8 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
xcopy *.* a: /s /e /h
```

9 作成したバックアップディスクに、ソフトウェア名称を記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。

ソフトウェア名称は「バックアップの内容」(→ [P.11](#)) の表で作成したものを記入してください。

3 プレインストール仕様

Windows NT セットアップが終了した時点での本ワークステーションの環境は、次のとおりです。

使用環境に合わせてシステム構成を変更してください。

ソフトウェア一覧

POINT

- ▶ ソフトウェアのインストール方法については、「[ソフトウェアのインストール](#)」(→ P.33) をご覧ください。

プレインストールソフト

名称	備考
Windows NT Workstation 4.0 (Service Pack6a)	「C:\Winnt」ディレクトリにインストールされています。 操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプ、および添付の『Windows NT Workstation ファーストステップガイド』をご覧ください。
電源切断対応 HAL	Windows NT シャットダウン時に自動的にワークステーション本体の電源を切るためのコンポーネントです。
Internet Explorer 5.01	WWW ブラウザです。
Windows 環境調査ツール (FM Advisor)	ご使用のワークステーションの動作環境を調査し、アドバイスすべき情報がないかチェックします。また、ワークステーションの動作環境情報の取得ツールとしてもお使いいただけます。これらの情報を利用して問題の解決に役立てることができます (→ P.51)。
Acrobat Reader	PDF (Portable Document Format) 書類を表示、閲覧、印刷できます。

添付ソフト（未インストール）

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法についてはヘルプまたはReadme.txtなどの説明ファイルをご覧ください。

名前	備考
MS-IME98	日本語変換ユーティリティです。
Power MANagement for Windows	本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです（→ P.25）。
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（→ P.18）。
FM-Menu	アイテムをクリックするだけで、簡単にプログラムを起動できます。また、特定のキー入力を抑止したり、Windows 機能を制限したりできます。これらの機能は、使用するユーザーごとに設定でき、本ワークステーションを使用するユーザーに応じて変更できます。ご使用前に必ず「Q&A 集」（Fm-menu.htm）および「ソフトウェア説明書」（Readme.txt）をご覧ください。
はじめよう！インターネット（@nifty）	インターネットプロバイダである @nifty への入会用ユーティリティです。
光磁気ディスク・ユーティリティ※	光磁気ディスクのフォーマットやドライブ割り当てを行うユーティリティです。

※カスタムメイドオプションで光磁気ディスクドライブを選択している場合のみ、ブレイインストールされます。

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 4GB	FAT (FAT16)
D	[総容量] - [C ドライブの容量]	NTFS
E	CD-ROM、DVD-ROM ※または CD-R/RW ※ ドライブ	
Q	光磁気ディスクドライブ※	

※：カスタムメイドオプション

FAT を NTFS に変換する方法については、「[ファイルシステムの変換](#)」(→ P.65) をご覧ください。

POINT

- ▶ 光磁気ディスク媒体に 2 つ以上の区画がある場合は、2 つ目以降の区画にドライブ割り当てが必要です。「光磁気ディスク・ユーティリティ」を使用して、割り当てを行ってください。
- ▶ パーティションを FAT16 にして 4GB を割り当てた場合または NTFS に変換した場合、Windows NT 4.0、Windows 2000 以外のオペレーティングシステムからは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。
- ▶ ファイルシステムの変換方法については、「[ファイルシステムの変換](#)」(→ P.65) をご覧ください。
- ▶ 4GB 以上に割り当てられた NTFS のパーティションに対しては、NTFS の圧縮機能は利用できません。利用するには、ディスクアドミニストレータなどを使用して 4GB 未満のパーティションを作成する必要があります。
- ▶ 標準搭載のハードディスクは、Ultra DMA/66 の転送モードに設定されています。
- ▶ DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して、DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。
- ▶ 光磁気ディスクなどのカスタムメイドオプションを接続された場合には、各ドライブ名が標準構成から変わる場合があります。必要に応じてドライブ名を割り当て直してください。

重要

- ▶ セカンダリ IDE に接続されているドライブには、DMA を設定しないでください。

Memo

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

1	コンピュータウイルス対策	18
2	画面を設定する	20
3	ネットワークを設定する	24
4	Power MANagement for Windows	25

1 コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、何らかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

VirusScan

本ワークステーションにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan が添付されています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行った上で使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

VirusScan はご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（→P.46）。

POINT

- ▶ 「VShield」を起動していると、アプリケーションを正常にインストールできなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「VShield」を使用不可にしてください。
 - ・「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates VirusScan NT」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「VirusScan オンアクセスモニタ」をクリックし、「スキャン」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。
 - ・「VShield」アイコン（) がタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「使用不可」をクリックします。
- ▶ VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- ▶ 本ワークステーションをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- ▶ VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル(DAT ファイル)と、検査プログラム(スキャンエンジン)を使用しています。DAT ファイルは以下のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
<http://www.nai.com/japan/>
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版のVirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重 要

- ▶ コンピュータウイルスに感染してしまい、本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

2 画面を設定する

ここでは、Windows NT 上で画面の設定を変更する方法について説明しています。

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少なくなります。
- ▶ 解像度、色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ▶ 画面の設定は、すべてのアプリケーションを終了させてから行ってください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示位置が左右にずれる場合があります。この場合は、ディスプレイの設定機能を使用して正しい位置に表示されるよう調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。

Matrox Millennium G450 搭載モデルの場合

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「Matrox 表示プロパティ」アイコンをダブルクリックします。

「Matrox 表示プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

POINT

- ▶ 解像度と色数の設定は、必ず「Matrox 表示プロパティ」ダイアログボックスから行ってください。
- ▶ 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Matrox PowerDesk NT」→「Matrox 表示プロパティ」の順にクリックしてもダイアログボックスを表示できます。

「設定」タブ内の設定項目の詳細は、次のとおりです。

- | | |
|----------------|--|
| • 「OK」 | 設定が終了したときにクリックします。 |
| • 「キャンセル」 | 設定を中止するときにクリックします。 |
| • 「適用」 | 設定を更新するときにクリックします。 |
| • 「カラーパレット」 | 色数を変更します。 |
| • 「リフレッシュ頻度」 | グラフィックスアクセラレータのリフレッシュレートを変更します。 |
| • 「フォントサイズ」 | フォントの大きさを変更します。 |
| • 「ディスプレイ領域」 | 画面の解像度を変更します。 |
| • 「ディスプレイスキーム」 | あらかじめ登録された画面設定の選択、登録名の変更、画面設定の削除、新たな登録を行うときにクリックします。 |
| • 「保存」 | 現在の画面設定を登録します。 |
| • 「削除」 | 選択した画面設定を削除します。 |
| • 「名前の変更」 | 選択した画面設定の登録名を変更します。 |

- 2 解像度、色数などを設定し、「適用」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「OK」をクリックします。
- 4 正常に表示された場合は「はい」を、不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、次に表示されるダイアログボックスで「OK」をクリックし、手順 2 に戻り再度解像度などを選択します。

設定が有効になります。

補足情報

「Matrox 表示プロパティ」ダイアログボックス内にはディスプレイドライバ特有の設定項目があります。

これらの設定項目については、プロパティ画面内のヘルプを参照してください。通常は初期設定値でご使用ください。

POINT

- ▶ 「パフォーマンス」タブ内の「3D アクセラレーションを使用」をチェックすることにより、3D 描画性能が向上します。一部のアプリケーションで正しく動作しない場合は「3D アクセラレーションを使用」のチェックを外してご使用ください。

CELSIUS Quadro2 シリーズ搭載モデルの場合

- 1** 「コントロールパネル」ウィンドウの「画面」アイコンをダブルクリックします。

POINT

- ▶ デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックしても、「画面のプロパティ」ダイアログボックスを表示できます。

- 2** 「ディスプレイの設定」タブをクリックします。

「ディスプレイの設定」タブ内の設定項目の詳細は、次のとおりです。

- 「OK」 設定が終了したときにクリックします。
- 「キャンセル」 設定を中止するときにクリックします。
- 「適用」 設定を更新するときにクリックします。
- 「モードの一覧」 使用しているグラフィックスアクセラレータが対応しているカラーパレット、デスクトップ領域、およびリフレッシュレートの組み合わせの一覧が表示されます。
- 「テスト」 画面の設定をテストします。
- 「ディスプレイの種類」 新しいグラフィックスアクセラレータやモニターのソフトウェアをインストールするときにクリックします。
- 「カラーパレット」 True Color に設定されています。
- 「フォントサイズ」 フォントの大きさを変更します。
- 「デスクトップ領域」 画面の解像度を変更します。
- 「リフレッシュレート」 グラフィックスアクセラレータのリフレッシュレートを変更します。

- 3** 解像度などを設定し、「テスト」をクリックします。

「テストモード」ダイアログボックスが表示されます。

- 4** 「OK」をクリックします。

テストビットマップ（カラーパターン）が、約5秒間表示されます。

POINT

- ▶ テストビットマップの表示中は、マウスクリックおよびキーボード入力を行わないでください。画面の一部が正常に表示できなくなる場合があります。もし、上記現象が発生した場合は、Windows NT を再起動してください。

テストビットマップの表示が終了すると「テストビットマップは正しく表示されましたか？」と表示されます。

- 5** 正常に表示された場合は「はい」を、不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、次に表示されるダイアログボックスで「OK」をクリックし、手順3に戻り再度解像度などを選択します。

6 「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。

設定が有効になります。

補足情報

「画面のプロパティ」ダイアログボックス内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目があります。これらの設定項目については各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプを参照してください。

POINT

- ▶ 実行中のアプリケーションを強制終了すると、画面表示が崩れる場合があります。この場合は、以下の手順に従ってディスプレイドライバの設定を変更してご使用ください。
 - 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「Quadro2 MXR」または「Quadro2 Pro」タブの「詳細プロパティ」をクリックします。
「詳細 Quadro2 MXR プロパティ」または「詳細 Quadro2 Pro プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「OpenGL 設定」タブの「バッファフリップモード」で「ブロック転送を使用」を選択し、「OK」をクリックします。
 - 4 「画面プロパティ」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
 - 5 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。

3 ネットワークを設定する

ここでは、ネットワークの設定方法について説明します。

Windows NT をセットアップしたあとに、お使いのネットワーク環境に合わせて設定を行ってください。以降の手順は、TCP/IP プロトコルを追加する方法です。

ネットワークの設定

- 1** 「ネットワークコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「プロトコル」タブをクリックし、「追加」をクリックします。
「ネットワークプロトコルの選択」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「ネットワークプロトコル」の「TCP/IP プロトコル」をクリックし、「OK」をクリックします。
「TCP/IP セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** DHCP を使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」をクリックします。
「Windows NT セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。
- 5** 次のように入力し、「続行」をクリックします。
c:\¥support¥i386
「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「閉じる」をクリックします。
このあとは、メッセージに従って操作してください。
- 7** インストール終了後Windows NT Service Pack6aをインストールしてください(→ P.41)。

4 Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「電源スイッチによるシャットダウン (電源 OFF)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」の機能を使用できます。

PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください (→ P.46)。

PMAN の機能

本ソフトウェアの主な機能は、以下のとおりです。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wake on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入/切断 (自動シャットダウン含む) を行うことができます。グループ指定 (運用単位) により複数のワークステーションを一括して電源投入/切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール)」の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時 (シャットダウン時) のイベントごとにユーザープロセス (プログラム、コマンドなど) を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることが可能です。たとえば、通常停止 (電源切断) のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ 電源切断対応 HAL について
必ず電源切断対応 HAL を使用してください。使用しない場合、シャットダウン後の自動電源切断が行われません (→ P.42)。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- ▶ DHCP について (リモート電源制御機能使用時のみ)
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- ▶ ダイアルアップアダプタが組み込まれている場合 (リモート電源制御機能使用時のみ)
ダイアルアップアダプタがプライマリとして組み込まれていることがあります。その場合は、「ネットワーク」ダイアログボックスからダイアルアップアダプタを削除し、本ワークステーションの LAN アダプタをプライマリに設定したあとに、PMAN のインストールを行ってください。

- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第 3 章

リカバリとインストール

本ワークステーションをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明します。

1	リカバリ概要	28
2	リカバリ操作	30
3	ソフトウェアのインストール	33

1 リカバリ概要

Windows NT が起動されないなどの問題が発生した場合、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「[プレインストール仕様](#)」（→ [P.13](#)））に戻す操作です。

リカバリは、大きく 2 種類に分かれます。

- ご購入時の状態に戻す
現在のハードディスクの領域設定はそのまま、C ドライブをご購入時の状態に戻します。
- 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す
ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
現在のハードディスク領域を変更したいとき、またはハードディスクを増設したときには、領域設定が必要になります。

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

■ ご購入時の状態に戻す場合

ハードディスクの領域設定は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみをリカバリします。

- 1 リカバリ前の準備（→ [P.30](#)）
- 2 リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）（→ [P.30](#)）
- 3 リカバリ終了後（→ [P.32](#)）

■ 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す場合

リカバリ中に画面上で確認しながら、ハードディスクの領域を再設定します。

100MB 単位で 2 区画設定できます。C ドライブに、2GB から 4GB までの FAT16 領域が設定できます。

- 1 リカバリ前の準備（→ [P.30](#)）
- 2 リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）（→ [P.31](#)）
- 3 リカバリ終了後（→ [P.32](#)）

留意事項

- 次のドライバ、ソフトウェアについては、ご購入時の状態には戻りません。リカバリ後、個別にインストールする必要があります（→ P.33）。
 - SCSI ドライバ
 - 光磁気ディスク・ユーティリティ
 - DAT ドライバ
 - ディスプレイドライバ
- リカバリやハードディスクの領域の変更を行うと、Cドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」を選択した場合は、リカバリを行っても、Cドライブ以外のドライブはフォーマットされません。
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」以外を選択してリカバリを行った場合、リカバリしたあと、必ず D ドライブをフォーマットしてください。また、リカバリ前に必要なデータを必ずバックアップしてください。
- リカバリを行うと、C ドライブは FAT16 に設定されます。NTFS に変換していた場合は、リカバリ後再度変換してください（→ P.65）。
- オプションを取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してからセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。

2 リカバリ操作

本ワークステーションをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- ▶ リカバリに関する留意事項（→ P.29）をよくお読みの上、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します（→『ハードウェアガイド』参照）。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

本ワークステーションをご購入時の状態に戻します。ハードディスクの領域は変更されません。

POINT

- ▶ リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」

- 1** 「リカバリ CD-ROM」をセットします。
- 2** 本ワークステーションを再起動します。
- 3** 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。
- 4** 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。
確認の画面が表示されます。

POINT

- ▶ ハードディスクの領域を設定し直してリカバリしたい場合は、「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択してください。画面を見ながら区画を任意に設定し、リカバリできます（→ P.31）。

5 【Y】キーを押します。

「Datacloning Wizard」と画面に表示され、ファイルのコピーが始まります。
リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

6 CD-ROM を取り出してから、本ワークステーションの電源を切ります。

7 以降、第 1 章を参照して操作してください。（→ P.8）

リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）

ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
リカバリ中に画面で確認しながら、100MB 単位で 2 区画の領域を設定できます。
C ドライブには、2GB から 4GB までの FAT16 領域が作成できます。

POINT

- ▶ ハードディスクの領域の設定を行うと、C ドライブおよび D ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」

1 「リカバリ CD-ROM」を起動し、リカバリメニューを表示します。

表示方法については、「[リカバリ操作](#)」（→ P.30）の手順 1 ～ 3 をご覧ください。

2 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。

領域の設定方法により、ここからの操作は異なります。

3 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行ってください。

重要

- ▶ 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

- ・ 任意の領域を設定する → 手順 4 へ
- ・ ご購入時の領域の状態に戻す → 手順 5 へ

4 「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。

【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定することができます。
領域を設定したら、【Enter】キーを押し、手順 6 へ進みます。

5 「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。

6 【Y】キーを押します。

領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

7 【Enter】キーを押します。

本ワークステーションが再起動し、「DatacloningWizard」と画面に表示され、ファイルのコピーが始まります。

ファイルのコピーが終了すると、「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

8 このあとは、「[リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）](#)」の手順6（→ P.31）へ進んでください。

リカバリ終了後

セットアップ後、必要に応じてドライバ、添付アプリケーションをインストールしてください。（→ P. 45）

3 ソフトウェアのインストール

ドライバおよびアプリケーションのインストール方法を説明します。

操作に必要なもの

- ドライバーズ CD
- リカバリ CD
- 「Microsoft® IME98」の CD-ROM
- 「[ドライバのバックアップ](#)」(→ [P.11](#)) で作成した「バックアップディスク」

POINT

- ▶ 必要なドライバやアプリケーションをインストールしたら、Windows NT Service Pack6a を必ずインストールしてください (→ [P.41](#))。
- ▶ インストール時に「Windows NT Workstation 4.0 Disc1」の CD-ROM を要求された場合は、「c:\support\i386」を指定してください。

ドライバのインストール

ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は次の表の場所にあります。

分類	ドライバ	インストール手順の保存場所とファイル名
チップセットドライバ	CELSIUS VIA Service Pack	「 チップセットドライバのインストール 」(→ P.34)
SCSI ドライバ	Adaptec Ultra160 SCSI Driver	「 SCSI ドライバのインストール 」(→ P.35)
ディスプレイドライバ	Matrox Millennium G450 Driver	「 ディスプレイドライバのインストール (Matrox Millennium G450 Driver の場合) 」(→ P.36)
	CELSIUS Quadro2 シリーズ Driver	「 ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS Quadro2 シリーズ Driver の場合) 」(→ P.37)
サウンドドライバ	VIA AC'97 Audio controller (VT82C686A) Driver	「 サウンドドライバのインストール 」(→ P.38)
LAN ドライバ	Intel PRO/100 LAN Driver	「 LAN ドライバのインストール 」(→ P.39)
3 モードフロッピーディスクドライバ	富士通 3 モードフロッピーディスクドライバ	「 3 モードフロッピーディスクドライバのインストール 」(→ P.39)

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、それぞれのフォルダ内の Readme.txt または Install.txt をご覧ください。

POINT

- ▶ チップセットドライバ、ディスプレイドライバをインストールする前に、必ず Windows NT Service Pack6a がインストールされていることを確認してください。
- ▶ 光磁気ディスクユニット、DAT ユニットを使用する場合は、ドライバをインストールする必要があります。(→ P.40)

チップセットドライバのインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥ViaSp¥Setup.exe
セットアップが始まります。
- 5** 「Welcome」ダイアログボックスが表示されたら、「Next」をクリックします。
「VIA Service Pack 1 README」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「Yes」をクリックします。
「VIA Bus Master PCI IDE Driver 2.1.49」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「Install」が選択されているのを確認し、「Next」をクリックします。
「Choose Destination Location」ダイアログボックスが表示されます。
- 8** 「Destination Folder」に表示されているインストール先を確認し、「Next」をクリックします。インストール先を変更するには、「Browse」をクリックし、インストール先を選択します。
「Select Program Folder」ダイアログボックスが表示されます。
- 9** 「Next」をクリックします。プログラム格納フォルダを変更するには、「Program Folders」にプログラム格納フォルダ名を入力し、「Next」をクリックします。
「Setup Complete」ダイアログボックスが表示されます。
- 10** 「Yes, I want to restart my computer now.」が選択されているのを確認し、CD-ROM を取り出してから「Finish」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

- 11** 再起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 12** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「VIADMATOOL」→「VIADMATool」の順にクリックします。
「DMA_Tool」ダイアログボックスが表示されます。
- 13** 「Current Setting」内のプライマリ IDE に接続されているデバイス（上から 1 つめおよび 2 つめ）のチェックボックスをチェックし、セカンダリ IDE に接続されているデバイス（上から 3 つめおよび 4 つめ）のチェックボックスのチェックをはずします。

POINT

- ▶ チェックボックスがチェックできない場合は、デバイスが接続されておりませんので、チェックする必要はありません。

- 14** 「Reboot」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

SCSI ドライバのインストール

POINT

- ▶ 光磁気ディスクドライブや DAT ユニットをご使用になる場合は、SCSI ドライバをインストールしてください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4** 「SCSI アダプタ」アイコンをダブルクリックします。
- 5** 「ドライバ」タブの「追加」ボタンをクリックします。
「ドライバのインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「ディスクの使用」をクリックします。
「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「配布ファイルのコピー元」に「[CD-ROM ドライブ]:¥Nt40¥Adaptec¥Nt4」と入力し、「OK」をクリックします。
「ドライバのインストール」ダイアログボックスが表示されます。

- 8 「Adaptec 29160(N),39160,AHA-3960D,AIC-7892/7899 Ultra160 PCI SCSI Controller (NT4.0)」が選択されているのを確認し、「OK」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
- 9 「今すぐコンピュータを再起動しますか？」と表示されたら、CD-ROM を取り出してから「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

ディスプレイドライバのインストール (Matrox Millennium G450 Driver の場合)

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「名前」に次のように入力して「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥G450¥setup.exe
「Matrox PowerDesk セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「Japanese」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 5 「標準」をクリックします。
- 6 Matrox Desktop Navigator などのインストールが完了した旨のメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。このとき、セットアップが完了するまで、しばらくの間マウスのボタンをクリックしないでください。
- 7 「セットアッププログラムは、システムに Matrox PowerDesk をインストールしました。」というメッセージが表示されたら、CD-ROM を取り出してから「完了」をクリックします。
本ワークステーションが再起動され、「無効なディスプレイ設定」ダイアログボックスが表示されます。「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックしてください。
- 8 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 9 「Matrox 表示プロパティ」をダブルクリックします。
「Matrox 表示プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。「設定」タブでご希望の解像度／色数を設定してください。

ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS Quadro2 シリーズ Driver の場合)

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ディスプレイの設定」タブの「ディスプレイの種類」をクリックします。
「ディスプレイの種類」ダイアログボックスが表示されます。
- 5** 「アダプタの種類」の「変更」をクリックします。
「ディスプレイの変更」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「ディスク使用」をクリックします。
「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「配布ファイルのコピー元」に以下のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]: ¥nt40¥Quadro2
- 8** 「ディスプレイ」の一覧から、搭載されているディスプレイアダプタにより以下を選択し、「OK」をクリックします。
 - CELSIUS Quadro2 MXR 搭載モデルの場合
「NVIDIA Quadro2 MXR」
 - CELSIUS Quadro2 Pro 搭載モデルの場合
「NVIDIA Quadro2 Pro」「サードパーティドライバ」ダイアログボックスが表示されます。
- 9** 「はい」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
- 10** 「ドライバをインストールしています」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 11** 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。
- 12** 「閉じる」をクリックします。
- 13** 「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、CD-ROM を取り出してから「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

14 再起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

「無効なディスプレイ設定」ダイアログボックスが表示されます。「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「ディスプレイの設定」タブで、ご希望の解像度／色数を設定してください。

サウンドドライバのインストール

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

「名前」に次のように入力して「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥Nt40¥ViaSnd¥SETUP. EXE

「VIA PCI Audio Driver Setup Program 1.10」ボックスが表示されます。

4 「ようこそ」ダイアログボックスが表示されたら、「次へ」をクリックします。

「コンポーネントの選択」ダイアログボックスが表示されます。

5 「Install Driver」を選択し、「次へ」をクリックします。

「情報」ダイアログボックスが表示されます。

6 「OK」をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

7 「デバイス」タブの「追加」をクリックします。

「追加」ダイアログボックスが表示されます。

8 「VIA AC'97 Audio controller」を選択し、「OK」をクリックします。

再び「情報」ダイアログボックスが表示されます。

9 「OK」をクリックします。

10 「追加」をクリックします。

「追加」ダイアログボックスが表示されます。

11 「VIA MIDI External Port Device」を選択し、「OK」をクリックします。

「質問」ダイアログボックスが表示されます。

12 「いいえ」をクリックします。

セットアップが始まります。

POINT

- ▶ 本ワークステーションではジョイスティックをサポートしておりません。必ず「いいえ」をクリックしてください。

- 13** 「インストールが完了しました」ダイアログボックスが表示されたら、CD-ROMを取り出してから「完了」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

POINT

- ▶ サウンドドライバをインストールすると、MIDI デバイスがインストールされますが、本ワークステーションでは MIDI をサポートしていません。

LAN ドライバのインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 3** 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4** 「アダプタ」タブの「追加」をクリックします。
- 5** 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスで、「ディスク使用」をクリックします。
- 6** 以下をフロッピーディスクドライブにセットし、ドライブ文字がご使用のフロッピーディスクドライブになっていることを確認してから「OK」をクリックします。
 - ・「Intel PRO/100 LAN ドライバ」のフロッピーディスク（ドライバーズ CD からバックアップ作成）
- 7** 「Intel(R) PRO Adapter」を選択し、「OK」をクリックします。
- 8** メッセージに従って操作を続けます。使用するネットワーク環境に合わせてプロトコルなどを設定してください。

3 モードフロッピーディスクドライブのインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「NT4.0 ドライバ」とラベルが貼られたフロッピーディスクをセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows NT エクスプローラ」の順にクリックします。
- 4** フロッピーディスクの「¥3mode」フォルダに移動します。
- 5** 「floppy00.inf」ファイルを右クリックし、「インストール」をクリックします。
インストールが始まります。

- 6** 「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、フロッピーディスクを取り出してから「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。

光磁気ディスク・ユーティリティのインストール

重要

- ▶ 光磁気ディスク・ユーティリティをインストールする前には、SCSI ドライバをインストールする必要があります。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥Moformat¥setup.exe

メッセージに従ってインストールを続けます。

DAT ドライバのインストール

重要

- ▶ DAT ドライバをインストールする前には、SCSI ドライバをインストールする必要があります。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 3** 「テープデバイス」をダブルクリックします。
- 4** 自動的に接続されている DAT ドライブが認識され、「ドライバのインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 5** 製造元を「(標準のテープドライブ)」、テープデバイスを「4mmDAT ドライブ」をクリックし、「OK」をクリックします。
「新しい SCSI テープデバイスが見つかりました」ダイアログボックスが表示されるので、「OK」をクリックします。
- 6** 「ディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されるので、「OK」をクリックします。
- 7** 「ファイルが必要」ダイアログボックスが表示されるので、コピー元に「c:¥support¥i386」を入力し、「OK」をクリックします。

8 「テープデバイス」のダイアログボックスが表示されるので、「OK」をクリックします。

9 Windows NT Service Pack6a をインストールします。

POINT

▶ インストール方法は、Windows NT Service Pack6a のインストールを参照してください。

10 Windows NT Service Pack6a のインストールが終了したら、再起動させます。
ログオン後、DAT ドライブが使用できるようになります。

Windows NT Service Pack6a のインストール

Windows NT Service Pack6a には、Windows NT に対する新しい修正、以前にリリースされた Service Pack の修正が含まれています。ドライバなどをインストールしたら、Windows NT Service Pack6a をインストールしてください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

C:\¥Support¥SP¥sp6i386.exe

「Windows NT Service Pack セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「同意する」をチェックし、「インストール」をクリックします。

メッセージに従ってインストールを続けます。インストールが終了すると、再起動メッセージが表示されます。

5 「再起動」をクリックします。

POINT

▶ Windows のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

2 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

▶ 新しいドライバなどをインストールしたあとは、Service Pack6a を再度インストールしてください。

DMA の設定

ハードディスクに DMA の設定を行うことができます。設定できるチャンネルは、プライマリ IDE です。

重要

▶ セカンダリ IDE に接続されているドライブには DMA を設定しないでください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「VIADMATool」→「VIADMATool」の順にクリックします。
「DMA_Tool」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「Current Setting」でプライマリ IDE に接続されているデバイス（上から1つめおよび2つめ）のチェックボックスをチェックします。
- 4 「Reboot」ボタンをクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

以上で設定は終了です。

設定が有効になっているかどうかを確認するには、再度「VIA PCI Bus Master IDE Utility」ダイアログボックスを起動します。

電源切断対応 HAL の組み込み

- 1 Windows NT 4.0 を起動します。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 3 システムがインストールされているドライブ（C: など）に移動します。
例：c: 【ENTER】
- 4 HAL.DLL がインストールされているディレクトリ、「%SystemRoot%（出荷時は %winnt% %system32）」に移動します。
例：cd %winnt%\system32 【ENTER】
- 5 既存の hal.dll のバックアップをとります。
例：copy hal.dll hal.org 【ENTER】
- 6 該当する機種用の NT4.0 ドライバディスク内の「halXXXX.dll」を「hal.dll」という名前でコピーします。（XXXX は各機種ごとに異なる名前です。）
例：copy a:\halfmva.dll hal.dll 【ENTER】

7 コピー終了後、シャットダウンし、Windows NT 4.0 を再起動します。

POINT

- ▶ ServicePack 適用後に電源切断機能が使用できなくなる事があります。この場合は ServicePack 適用後に再度手動で電源切断 HAL を組み込み直してください。

シャットダウン時に電源切断を選択できるようにする

シャットダウン時の電源切断機能を有効にするために、電源切断用 HAL のインストール 終了後に次の操作を行ってください。

POINT

- ▶ レジストリの変更時に誤った設定を行うと、システムが起動できなくなることがあります。変更するときは十分に注意してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」ボックスに次のように入力し、「OK」をクリックします。
regedt32
「レジストリエディタ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ローカルマシン上の HKEY_LOCAL_MACHINE」ウィンドウをアクティブにし、以下のレジストリキーに移動します。
¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥WindowsNT¥
CurrentVersion¥Winlogon
- 5 「PowerdownAfterShutdown」をダブルクリックします。
「文字列エディタ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「文字列」に「1」を入力し、「OK」をクリックします。
- 7 「レジストリ」→「レジストリエディタの終了」の順にクリックします。
設定した内容はすぐに反映されます。再起動する必要はありません。

プレインストールソフトのインストール

Internet Explorer 5.01 のインストール

ご購入時には Internet Explorer 5.01 がインストールされています。

再インストールを行う場合は、「リカバリ CD-ROM」の ¥IE5¥IE5SETUP を実行してください。

POINT

- ▶ Internet Explorer のインストールは、Windows NT Service Pack6a のインストール後に行ってください。

FM Advisor のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥FmAdv¥advisor¥setup.exe

メッセージに従ってインストールを続けます。

Acrobat Reader のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥Ac¥acrobat¥ar405jpn.exe

- 5** 「次へ」を2回クリックします。
- 6** 「情報」で「OK」をクリックします。
- 7** 本ワークステーションを再起動します。

添付ソフトのインストール

MS-IME98 のインストール

- 1** 「Microsoft® IME98」の CD-ROM をセットします。
しばらくすると、「Microsoft IME98 セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「継続」をクリックします。
メッセージに従ってインストールを続けます。

FM-Menu のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥FMMenu¥setupfm-menu.exe
メッセージに従ってインストールを続けます。

はじめよう！インターネット（@nifty）のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥Nt40¥NIFTYSGN¥niftysgn¥Setup.exe
メッセージに従ってインストールを続けます。

重要

- ▶ 「セットアップ完了」ダイアログボックスが表示された場合は、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」をクリックし、インストールを終了させてから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」→「コンピュータを再起動する」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動させてください。

PMAN のインストール

POINT

- ▶ PMAN の詳細については、「[Power MANagement for Windows](#)」(→ P.25) をご覧ください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力して、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: %Nt40¥Pman¥pmansub¥setup.exe
メッセージに従ってインストールを続けます。

VirusScan のインストール

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: %Nt40¥Vsnt¥setup.exe
インストールが始まります。次のポイントを参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- ▶ 「サービスアカウント情報」ダイアログボックスでは、管理者権限を持った「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

第4章

困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

- 1 こんなときには 48
- 2 それでも解決できないときは 52

1 こんなときには

ここでは、Windows NT の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

Windows NT に関して

添付の Windows NT のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

ハードウェアに関して

マニュアル『ハードウェアガイド』をご覧ください。

Windows NT に関する Q&A

Q ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

A 各ドライバをインストールし直す必要があります。

お使いの機種に対応する各ドライバは、「ドライバーズ CD」内の「IndexCD.htm」でご確認ください。インストール方法については、「[ドライバのインストール](#)」(→ P.33)をご覧ください。

Q プリンタの追加方法は？

A1 次の手順で追加してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」の順にクリックします。
- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックします。

「プリンタの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

以降は、ローカルプリンタを追加するか、ネットワークプリンタを追加するかで手順が異なります。

ローカルプリンタの場合

- 4 「このコンピュータ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 「利用可能なポート」の「LPT1:」をチェックし、「次へ」をクリックします（通常は LPT1 ですが、空いていない場合は別のポートを選択します）。
- 6 「製造元」からプリンタメーカーを、「プリンタ」から該当するプリンタを選択し、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ プリンタにドライバディスクが添付されている場合は、それらをセットしてから「ディスク使用」をクリックし、該当するプリンタを選択します。

- 7 「プリンタ名」でプリンタの名前を付け、「次へ」をクリックします。すでにほかのプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、「次へ」をクリックします。
- 8 プリンタを共有しない場合は、「共有しない」をクリックし、「次へ」をクリックします。共有する場合は「共有する」をクリックし、「共有名」を付け、「次へ」をクリックします。
- 9 テストページを印刷する場合は、「はい（推奨）」をクリックし、印刷しない場合は「いいえ」をクリックして、「完了」をクリックします。

ネットワークプリンタの場合

- 4 「ネットワークプリンタサーバー」をクリックし、「次へ」をクリックします。「プリンタの接続」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 「共有プリンタ」からプリンタを選択し、「OK」をクリックします。
- 6 さらに他のプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、「次へ」をクリックします。
- 7 「完了」をクリックします。

Q 光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用するには？

A 光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、まず、SCSI ドライバがインストールされていることを確認してください（インストール手順→ P.35）。その後、「光磁気ディスク・ユーティリティ」をインストールして使用してください（インストール手順→ P.40）。なお、「光磁気ディスク・ユーティリティ」は、SCSI 規格の光磁気ディスクドライブで使用できます。

Q 光磁気ディスクドライブを接続すると各ドライブのドライブ名が変わってしまった

A 光磁気ディスクドライブなどのカスタムメイドオプションを接続された場合には、各ドライブ名が標準構成から変わる場合があります。必要に応じてドライブ名を割り当てなおしてください。

Q キーボードの NumLock がオンの状態で、Windows NT を起動したい

A NumLock がオンの状態でログオフすると、次回から NumLock がオンの状態で起動します。

重要

- ▶ レジストリの変更時に誤った設定を行うと、本ワークステーションが起動できなくなることがあります。変更するときは、十分に注意してください。

Q Windows 95 や MS-DOS のように、ワークステーション同士をシリアルケーブルで接続してデータのやりとりができますか？

A RAS（Remote Access Service）の機能を使うことによって、シリアルケーブル接続でのデータのやりとりが可能です。

「Q: [モデムの追加方法は？](#)」（→ P.50）に従ってモデムの追加を行います。このとき、「製造元」から「（標準のモデムドライバ）」を、「モデル」から「シリアルケーブル PC-PC 接続」を選択してください。

Q モデムの追加方法は？

A 次の手順で追加してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウの「モデム」アイコンをダブルクリックします。
「新しいモデムのインストール」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。
- 4 「製造元」からモデムメーカーを、「モデル」から該当するモデムを選択し、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ モデムにドライバディスクが添付されている場合は、それらをセットしてから、「ディスク使用」をクリックし、該当するモデムを選択します。
- 5 「選択したポート」をクリックし、表示されている COMn (n には数字が表示されています) をクリックして、「次へ」をクリックします。
 - 6 「完了」をクリックします。
「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 7 「ダイヤルのプロパティ」をクリックします。
 - 8 所在地の設定を行い、「OK」をクリックします。
国／地域番号：現在お使いになっている国を選択します（例：日本）。
市外局番：現在お使いになっている場所の市外局番を入力します（例：03）。
外線発信番号：外線を使用している方で、外線にかける場合に必要の番号を入力します（例：0）。
ダイヤル方法：電話の契約がプッシュ回線の場合はトーン、ダイヤル回線の場合はパルスを選択します。
 - 9 「閉じる」をクリックします。

Q ログオン時のパスワードに、大文字、小文字の区別はありますか？

A あります。

Q 自動ログオン（パスワード入力なしでログオンすること）の設定方法は？

A 次の手順で設定してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
regedt32
- 4 「ローカルマシン上の HKEY_LOCAL_MACHINE」ウィンドウをアクティブにし、以下のレジストリに移動します。
「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Winlogon」
- 5 「AutoAdminLogon」をダブルクリックします。
- 6 「文字列」の値を「1」に変更し、「OK」をクリックします。
- 7 「DefaultPassword」をダブルクリックします。
- 8 「文字列」に DefaultUserName の下にリストされたユーザーのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
- 9 「レジストリ」メニュー→「レジストリエディタの終了」の順にクリックします。

重要

- ▶ 手順 8 でパスワードを設定しない場合は、次のログオン時のみ自動ログオンできません。
- ▶ レジストリの変更時に誤った設定を行うと、本ワークステーションが起動できなくなることがあります。変更するときは、十分に注意してください。
- ▶ 手順 5 および手順 7 のレジストリの値がない場合は、「編集」メニュー→「値の追加」の順にクリックし、それぞれ次のように入力して、「OK」をクリックします。
 - 手順 5
値の名前：AutoAdminLogon
データタイプ：REG_SZ
 - 手順 7
値の名前：DefaultPassword
データタイプ：REG_SZ
- ▶ ネットワーク環境において、Windows NT 4.0 の自動ログオン機能を使用する場合、本ワークステーション起動時にサーバーに接続できないことがあります。この場合は、サーバーへの再接続を行ってください。
- ▶ 自動ログオン機能を使用してネットワークに接続した場合、正規ユーザー以外がネットワークにログインすることが可能になります。セキュリティ上の問題が発生する場合、自動ログオン機能を使用しないでください。

Q オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない

A 本ワークステーションでは、次のワークステーション診断アプリケーションを用意しています。

FM Advisor

FM Advisor の使用方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
- 調査結果が表示されます。

Q 「レジストリクォータ不足」の警告（「システムのレジストリクォータが不足しています。レジストリクォータを増やすには、「コントロールパネル」ウィンドウの「システム」を起動して「仮想メモリ」をクリックしてください。」）が表示されたら？

A 次の手順で設定してください。

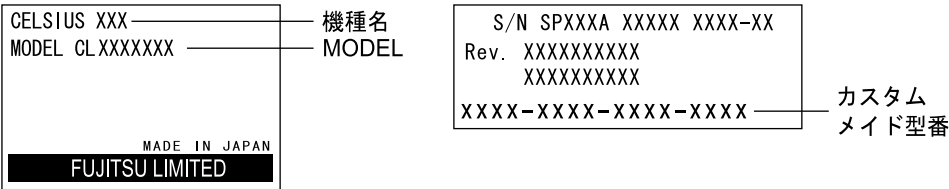
- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
 - 2 実行中のアプリケーションを終了します。
 - 3 「コントロールパネル」ウィンドウの「システム」アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 4 「パフォーマンス」タブをクリックし、仮想メモリの「変更」をクリックします。
 - 5 「最大レジストリサイズ (MB)」に「19」と入力し、「OK」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。
 - 6 「OK」をクリックします。
 - 7 「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、「はい」をクリックします。
- 操作後も上記のメッセージが表示される場合は、「最大レジストリサイズ (MB)」を「20」以上に設定してください。

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先にお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／MODEL／カスタムメイド型番を確認し、次のページのシートに環境とトラブル状況などを記入してください。

機種名／MODEL／カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	担当営業員または担当保守員
故障かなと思われたとき	担当営業員または担当保守員
技術的なご質問・ご相談	担当営業員または担当保守員
本ワークステーションにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	本書の冒頭に記載されている「 お問い合わせ一覧 」(→ P.4)

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

インターネット (製品の技術情報)	富士通オープンシステム情報ページ PRIMESERVER WORLD http://primeserver.fujitsu.com/
----------------------	--

お問い合わせ前の確認シート

お客様の環境

お使いのワーク ステーションの 機種は？	機種名：CELSIUS	MODEL：
	カスタムメイド型番：	
	購入日：	

メモリの容量は？	本体標準： MB	
	増設： MB	[メーカー：] [型番：]

増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー

お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン／レベル	メーカー
	Windows NT	4.00 (Service Pack)	—

トラブル状況ワークステーション

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は？	
以前は問題なく 動作していましたか？	・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

Memo

第 5 章

5

技術情報

ファイルシステムの変換方法や留意事項などについて説明しています。

1	その他の留意事項	56
2	ファイルシステムの変換	65

1 その他の留意事項

本ワークステーションをお使いになる上での留意事項を記載しています。

Windows NT の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「Windows NT Workstation 4.0 Disc1」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「c:\support\i386」を指定してください。

重 要

- ▶ 「C:\Support\i386」フォルダは削除しないでください。削除すると、ネットワークコンポーネントの追加ができなくなります。

本ワークステーションで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本ワークステーションおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本ワークステーションに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。

また、本ワークステーションに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

他の OS のサポートについて

本ワークステーションでは、Windows NT Workstation 4.0 および Windows 2000 Professional 以外の OS はサポートしていません。

Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本ワークステーションにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。

バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（→ P.44）。

新規ユーザーで Adobe Acrobat Reader を利用する場合

以下の手順で使用します。

- 1** Adobe Acrobat Reader を起動します。
- 2** 「Acrobat」ダイアログが出たら「日本語」を選択し「OK」をクリックします。
（最初は「English」が選択されています。）
- 3** 「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログ内の文書をよく読み、「同意する」をクリックします。

4 以降は普通に起動されます。

ディスプレイドライバ

- 解像度、色数、リフレッシュレートを変更する場合は必ずアプリケーションを終了させてから行ってください。
「画面のプロパティ」－「ディスプレイの設定」－「リフレッシュレート」は接続するディスプレイに合わせて設定してください。
- 解像度、色数、リフレッシュレートの変更を行い、「この新しい設定が正しいかどうかテストしていません。」という警告メッセージが表示された場合は、必ず「キャンセル」をクリックし、テストを行ってください。
- 本ディスプレイドライバは、Windows NT Service Pack6a 上で動作します。
- グラフィック性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出すことがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。設定を調整して使用してください。なお、正常に表示されない場合は、色数を 256 色または 16,777,216 色に設定してください。
- DirectX のサポートは、DirectX3 の DirectDraw のみです。
- CELSIUS Quadro2 シリーズで画面の解像度が 1024 × 768 の場合に、「3D フラワーボックス (OpenGL)」または「3D テキスト (OpenGL)」のスクリーンセーバを使用すると、システムがストップしたり、画面がブランクになったりしますので、ご使用にならないでください。

ディスクアドミニストレータ

ディスクアドミニストレータがディスクにアクセスできるようにするために、初めてディスクアドミニストレータを起動したとき、ディスクに署名を書き込む必要があります。次の手順で署名を書き込んでください。

- 1 ディスクアドミニストレータを起動すると、「ディスクアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されるので、「OK」をクリックします。

「確認」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「はい」をクリックします。

ディスクに署名が書き込まれ、ディスクアドミニストレータでディスクをアクセスできるようになります。

Windows NT 4.0 Service Pack6a に関する留意事項

- Windows NT 4.0 Service Pack6a をインストールした環境に新しいコンポーネントをインストールすると、正常に動作しない場合があります。
これは、追加したコンポーネントのファイルが、Service Pack6a のコンポーネントのファイルと異なる場合があるためです。たとえば、Service Pack6a をインストール後、ネットワークを組み込んだときに、サーバーサービスが正常に動作しなくなる現象が確認されています。原因は、「C:\Support¥I386」からインストールされたネットワークモジュールが、Service Pack6a のネットワークモジュールと異なるためです。このような場合は、再度 Service Pack6a をインストールする必要があります。
- ネットワークがインストールされていない環境に Service Pack6a をインストールしたあと、フォントやマルチメディアドライバなどを追加する際に「参照」をクリックすると、Windows NT がインストールされているドライブしか表示されない場合があります。
インストール元がフロッピーディスクまたは CD-ROM の場合は Windows NT がインストールされているドライブに適切なフォルダを作成し、このフォルダにインストールするドライバやファイルをあらかじめコピーしてからインストールしてください。
なお、「マルチメディア」の「ドライバのインストール」では、フルパスを入力してインストールすることもできます。
- シャットダウン時またはログオフ時、次のエラーメッセージが表示されることがありますが、動作に問題はありません。
「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるためアプリケーションが初期化に失敗しました。」
このメッセージが表示されたあとにログオンすると、日本語入力システムとして MS-IME97 を使用している場合、下記の現象が起きることがあります。なお、文字入力は正常に行えます。
 - ・ MS-IME97 のツールバーを「タスクバーに入れる」に設定していると、「日本語入力インジケータ」が表示されなくなることがあります。
「日本語入力インジケータ」を表示させるには、MS-IME97 を再度オンにしてください。
 - ・ MS-IME97 のツールバーを「ドッキング可能」に設定していても、ドッキング機能が有効にならないことがあります。
- 「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、スクリーンセーバーとして「チャンネルスクリーンセーバー」を指定しないでください。アプリケーションエラーが発生します。
- ソフトウェアを使用するときに、次のようなメッセージが表示される場合があります。
パフォーマンスモニタ：perfmon.exe -DLL が見つかりません。
ダイナミック リンク ライブラリ snmpapi.dll が指定されたパス
C:\WINNT¥system32\;C:\WINNT¥system32\C:\WINNT¥system;
C:\WINNT;C:\WINNT¥system32;C:\WINNT に見つかりません。
この場合、次の方法で回避できます。
 - ・ ネットワークプロトコルに「TCP/IP プロトコル」を追加する。
 - ・ 「Windows NT Service Pack6a Disc1」内の「¥I386¥Snmpapi.dll」を「C:\Winnt¥System32」にコピーする。

● イベントビューアにエラーが登録される場合について

本ワークステーションへのログオン時、「イベントビューア」に以下のエラーが登録される場合があります。この場合、下記に記載してあるいずれかの方法にて回避してください。

イベント ID : 7001

ソース : Service Control Manager

種類 : エラー

説明 : Protected Storage サービスは次のエラーのために開始できなかった Remote Procedure Call (RPC) Service サービスに依存します :
サービスは開始後に開始待ち状態でハングしました。

イベント ID : 7022

ソース : Service Control Manager

種類 : エラー

説明 : Remote Procedure Call (RPC) Service サービスは開始時にハングしました。

・ 回避方法

・ 1. IPX プロトコルを削除する。

IPXプロトコルを使用していない場合は以下の手順に従いIPXプロトコルを削除します。

- 1 「ネットワークコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「プロトコル」タブをクリックし、「ネットワークプロトコル」から「NWLink IPX/SPX 互換トランスポート」を選択し「削除」ボタンをクリックします。
- 3 「はい」をクリックします。

・ 2. TCP/IP プロトコルをインストールし、TCP/IP プロトコルを使用する。

・ 3. DCOMCNFG の既定のプロトコルタブで NetBEUI の優先順位を上げる。

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

dcomcnfg

「分散 COM の構成のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 「既定のプロトコル」タブを選択し、「DCOM プロトコル」から「Connection-oriented NetBEUI」を選択します。
- 4 「Connection-oriented NetBEUI」が「Datagram IPX」より上に表示されるまで「上へ」をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

Internet Explorer 5.01 の留意事項

「スタート」ボタン→「設定」→「タスクバー」の順にクリックし、「スタートメニューの設定」タブから削除を行うとエラーが発生します。

削除するときは、「スタート」ボタンを右クリックして「開く」をクリックし、スタートメニューのプログラムから該当する項目を削除してください。

ダイヤルアップ接続設定後に発生する問題

Internet Explorer 起動時に、インターネット接続ウィザードのセットアップオプションで「新しいインターネットアカウントにサインアップします（電話回線はモデムに接続されています）」を選択してダイヤルアップ設定を行うと、Windows NT 起動時に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

「1 つ以上のサービスまたはドライバがシステム起動時にエラーになりました。

詳しくはイベントビューアを使用してイベントログを確認してください。」

このときイベントログに「システム接続されたデバイスが機能していません。」という内容のエラーが記録されます。

このエラーメッセージを表示させないようにするためには、Service Pack6a を再インストールしてください。

Windows NT での省電力モード

Windows NT では、省電力モードをサポートしていません。

光磁気ディスクドライブ増設時の留意事項

光磁気ディスクドライブを増設した場合は、SCSI ドライバがインストールされていることを確認した後、「光磁気ディスク・ユーティリティ」でドライブの割り当てを行ってください。「光磁気ディスク・ユーティリティ」については、「ドライバーズ CD」内の「¥Nt40¥Moformat¥Readme.txt」をご覧ください。

スーパーフロッピー形式の光磁気ディスク

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows NT で認識できないことがあります。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合は、「光磁気ディスク・ユーティリティ」を使用してください（→ P.40）。

ネットワーク使用時の留意事項

オプションの LAN カードを、2 枚以上使用したネットワーク運用は、本ワークステーションではサポートしておりません。

LAN の設定を変更する

LAN の設定を変更する場合は、Windows NT を再起動後、使用環境に合わせて変更してください。また、LAN の設定を変更するには、LAN ケーブルが接続されている必要があります。設定する値については、ネットワーク管理者にご確認ください。

■ ハブユニットの Link ランプが点灯しない、通信できない、通信が異常に遅い場合

ハブユニットの仕様や設定に合わせてアダプタの設定を変更してください。

Intel(R) PROSet II で「Speed」と「Duplex」、または「Link Speed & Duplex」を「Auto Detect」からハブユニットに合った通信速度に変更してください。

重要

▶ Intel(R) PROSet II 起動前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「Intel(R) PROSet II」アイコンをダブルクリックします。

2 「Advanced」タブの「Setting」で変更する項目をクリックし、「Value」に値を指定します。

- Link Speed & Duplex : 「Setting」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「Value」から通信速度／通信方式を指定します。

100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

Auto Detect … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

POINT

- ▶ 全二重モードに設定する場合、ハブユニット側も全二重モードに設定する必要があります。

■ ローカルアドレス

ローカルアドレスを使用する場合は、Intel(R) PROSet II の「Advanced」タブの「Setting」で「Locally Administered Address」を変更してください。

重要

▶ Intel(R) PROSet II 起動前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「Intel(R) PROSet II」アイコンをダブルクリックします。

2 「Advanced」タブの「Setting」で「Locally Administered Address」をクリックし、「Value」に値を指定します。

「Value」には、「02」で始まる 16 進 12 桁を入力してください。グローバルアドレスに戻したい場合は「Restore Default」をクリックしてください。

プリンタ関連の留意事項

■ FMLBP シリーズ、FMPPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なる場合があります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

■ FMLBP225PS、FMLBP211PS をお使いの場合

- 「ドキュメント」ダイアログボックスの「ドキュメントのオプション」内の「プリンタの機能」にある「標準に戻す」は機能しません（クリックしても、変更前の設定状態には戻りません）。
- 「ドキュメント」ダイアログボックスの「ハーフトーンカラーの調整」で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- 用紙の種類を「A4 横」のような「××横」に設定しても、正しく印刷できません。このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」印刷の向きを「横」のようにして印刷してください。

■ 任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって次の範囲となっています。この範囲外のものを使用できません。なお、下記のシリアルプリンタのすべてについて動作を保証するものではありません。

● 用紙サイズの設定

プリンタの「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックし、「用紙」タブの「新しい用紙を作成する」をチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。

詳細については、Windows NT のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。

幅: 50 ～ 345.4mm (1.79 ～ 13.6 インチ) 高さ: 50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) のドライバ
(136 桁プリンタ)

「FUJITSU FMPR 180」	「FUJITSU FMPR 180 (Color)」
「FUJITSU FMPR-353G2」	「FUJITSU FMPR-353A2」
「FUJITSU FMPR-361」	「FUJITSU FMPR-372」
「FUJITSU FMPR-671」	「FUJITSU FMPR-654」
「FUJITSU FMPR-359F1」	「FUJITSU FMPR-455」
「FUJITSU FMPR-456」	「FUJITSU FMPR-371A」
「FUJITSU FMPR-374」	「FUJITSU FMPR-366 (Monochrome)」
「FUJITSU FMPR-373 (Color)」	「FUJITSU FMPR-366 (Color)」
「FUJITSU FMLP-351」	「FUJITSU FMPR-373 (Monochrome)」
「FUJITSU FMPR-672」	

幅: 50 ～ 203.2mm (1.79 ～ 8 インチ) 高さ: 50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) のドライバ
(80 桁プリンタ)

「FUJITSU FMPR-302G2」	「FUJITSU FMPR-302A2」
「FUJITSU FMPR-204B」	「FUJITSU FMPR-204W」
「FUJITSU FMPR-101W」	「FUJITSU FMPR-101B」
「FUJITSU FMPR-102G」	「FUJITSU FMPR-601」
「FUJITSU FMPR-303G」	「FUJITSU FMJP-101G」
「FUJITSU FMPR-221G」	

幅: 50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) 高さ: 50 ～ 420.0mm (1.79 ～ 16.5 インチ) のドライバ
(136 桁プリンタ)

「FUJITSU FMPR 360」	「FUJITSU FMPR 360 (Color)」
「FUJITSU FMJP-211」	

幅: 25.4 ～ 345.4mm (1 ～ 13.6 インチ) 高さ: 25.4 ～ 558.8mm (1 ～ 22 インチ) のドライバ
(ESC/P シーケンス)

「FUJITSU ESC/P」	「FUJITSU FMPR-375E」
「FUJITSU FMLP-371E」	「FUJITSU FMP-PR121G」

キーボード関連の留意事項

■ 起動時のキーボード入力

Windows NT 起動時にキーボードから入力を行うと、イベントビューアに「ソース：i8042prt/ イベント ID：19」のエラーが記載されることがあります。しかし、本ワークステーションを使用するうえで問題はありません。

CD-ROM の取り出し

CD-ROM ドライブの EJECT ボタンを押しても、CD-ROM が取り出せないことがあります。その場合は、次の手順で CD-ROM を取り出してください。

- 1** 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
- 2** CD-ROM ドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックします。

FM Advisor の CPU 情報表示

FM Advisor の「CPU 情報」の表示において、CPU 名・CPU クロックが正しく表示されない場合があります。あらかじめご了承ください。

日本語入力システムが 2 つ以上組み込まれている場合

MS-IME97 以外の日本語入力システムが組み込まれている場合、一度ログオフしてから再度ログオンすると、画面に日本語入力システムのツールバーが 2 つ表示されることがあります。標準に設定されていない日本語入力システム（【漢字】キーを押しても、アクティブにならない）を操作しなければ問題ありませんが、操作を行った場合、画面上にウィンドウの跡が残ることがあります。この場合は、Windows NT を再起動してください。

2 ファイルシステムの変換

本ワークステーションのハードディスク上のシステムドライブは、FAT ファイルシステムでフォーマットされています。

FAT から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。

ファイルシステムを NTFS に変換する方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ パーティションを FAT16 にして 4GB を割り当てた場合または NTFS に変換した場合、Windows NT 4.0、Windows 2000 以外のオペレーティングシステムからは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。

	Windows NT 4.0		Windows 2000	Windows 98	Windows 95 OSR2 以降
	Service Pack4 以降	Service Pack3 以前			
Windows NT の NTFS	○	○	○	×	×
Windows 2000 の NTFS	○	×	○	×	×
FAT32	×	×	○	○	○
FAT16	○	○	○	○	○

- ▶ すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
convert n: /fs:ntfs /v
```

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)

ブートパーティションを変換する場合は、次のメッセージが表示されます (ブートパーティションが C ドライブの場合)。

「ファイルシステムの種類は FAT です。

CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」

- 4 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押したあと、Windows NT を再起動します。
このとき、Windows NT は 2 回再起動します。

Memo

索引

記号

- 3 モードフロッピーディスク
ドライバ..... 33
 ーのインストール 39

A

- Acrobat Reader 13, 56
 ーのインストール 44

C

- CD-ROM の取り出し 64

D

- DAT ドライバのインストール..... 40
- DMA の設定 42

F

- FAT 15, 65
- FM Advisor 51
 ーの CPU 情報表示 64
 ーのインストール 44
- FM-Menu 14
 ーのインストール 45

I

- Internet Explorer 5.01 13
 ーのインストール 44
 ーの留意事項 59

L

- LAN
 ードライバ 33
 ードライバのインストール 39
 ーの設定 61

M

- MODEL 52
- MS-IME98..... 14
 ーのインストール 45

N

- NTFS.....15, 65
- NumLock49

P

- Power MANagement for Windows
(PMAN)14, 25
 ーのインストール46

Q

- Q&A.....48

S

- SCSI ドライバ.....33
 ーのインストール35

T

- TCP/IP プロトコルの追加24

U

- Ultra DMA/6615
- Ultra DMA の設定42

V

- VirusScan14, 18
 ーのインストール46

W

- Windows NT.....13
 ー Service Pack6a の
 インストール41
 ー Service Pack6a の留意事項58
 ーセットアップ8
- Windows 環境調査ツール
(FM Advisor)13

あ

色数	20
----	----

か

解像度	20
カスタムメイド型番	52
画面の設定	20
キーボード関連の留意事項	64
機種名	52
コンピュータウイルス	18
ーの被害届け	19
ーを発見した場合	19

さ

サウンドドライバ	33
ーのインストール	38
自動ログオン	50
使用許諾契約	8
省電力モード	60
情報サービス	52
シリアルケーブル接続	49
スーパーフロッピー形式の 光磁気ディスク	60

た

ダイヤルアップ接続	60
他の OS	56
チップセットドライバの インストール	34
ディスクアドミニストレータ	57
ディスプレイドライバ	33, 57
ーのインストール	36
電源切断対応 HAL	13
ーの組み込み	42
添付ソフト	14
ドライブ構成	15
トラブル	48

な

ネットワーク	
ー使用時の留意事項	60
ーの設定	24

は

はじめよう！インターネット （@nifty）	14
ーのインストール	45
パスワード	50
光磁気ディスクドライブを スーパーフロッピー形式で使用する	49
光磁気ディスク・ユーティリティ	14
ーのインストール	40
ファイルシステム	15
ファイルシステムの変換	65
プリンタ	
ーの追加方法	48
ーの留意事項	62
プレインストールソフト	13

ま

モデムの追加方法	50
----------	----

や

ユーザー登録	11
--------	----

ら

リカバリ	28
連絡先	52

Memo _____

使用許諾契約書

このたびは、富士通株式会社（以下弊社といいます）製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

弊社では、本ワークステーションにインストール、もしくは添付されているソフトウェアのうち、弊社が取り扱うソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で本契約に同意していただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。

ただし、本ソフトウェアのうちの特定のソフトウェアに関する「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は本ソフトウェアを、日本国内において同時に1台のコンピュータでのみ使用できます。

なお、お客様は本ワークステーションのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属します。

2 バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1式の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。

3 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合にはお客様はマニュアル等に記載されている要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。

(2) 前号「(1)」によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、お客様は本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェアを第三者へ譲渡する場合には、お客様が保有する本ソフトウェアの複製物のすべてを破棄するか、本ソフトウェアとともに第三者に譲渡してください。

6 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7 アフターサービス（保証の範囲）

(1) 弊社は、お客様が「ユーザー登録カード」を弊社宛にご返送いただいた場合に限り、本ワークステーションをご購入いただいた日から1年間、本ソフトウェアの改訂版（レベルアップ）に関する情報等をお知らせいたします。

(2) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して、弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合は、本ワークステーションをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)、(2)および(3)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

(4) 弊社は、前各号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

CELSIUS 421

ソフトウェアガイド

Windows NT

P3F1-1020-01

発行日 2001 年 7 月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

